

新型コロナウイルス感染症流行前後におけるクルーズ観光に対する意識調査

二羽遼太郎¹・藤生慎²・高山純一³

¹学生会員 金沢大学大学院自然科学研究科 環境デザイン学専攻 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail : iiviii_796.8276n@stu.kanazawa-u.ac.jp

²正会員 金沢大学准教授 理工研究域 地球社会基盤学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail : fujiu@se.kanazawa-u.ac.jp (Corresponding Author)

³フェロー 金沢大学名誉教授 理工研究域 地球社会基盤学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail : takayama@se.kanazawa-u.ac.jp

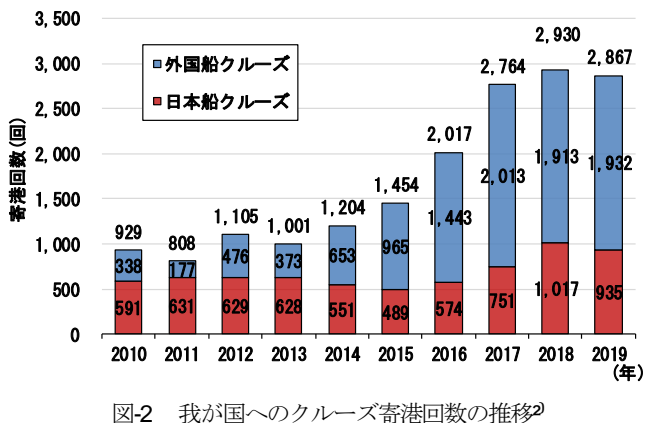
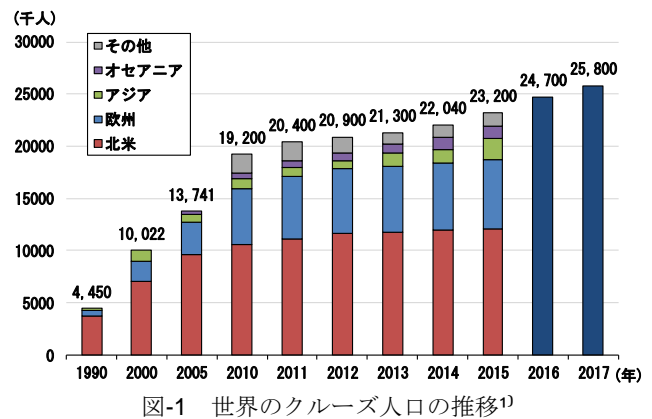
近年注目を浴びるクルーズ観光であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、我が国の観光関連産業には深刻な影響が生じ、現在各地の港湾においてはクルーズ再開の目途が立っていない現状である。しかし観光庁は収束後の観光産業の回復を見据えた「観光ビジョン実現プログラム2020」を策定し、その中でクルーズ船受入の更なる拡充を図る為の施策を提唱している。以上の背景より、クルーズの再興に向けて現状の人々のクルーズ観光に対する意識を把握することが重要である。本研究ではWebアンケートにより新型コロナウイルス感染症流行前後におけるクルーズ需要の変化や、クルーズが再開することへの意識を調査する。

Key Words : Cruise ship, COVID-19, Web questionnaire, survey

1. はじめに

世界的にクルーズ観光が注目を集めており、世界のクルーズ人口の推移は欧州や北米を中心に年々増加傾向にある(図-1)¹⁾。近年では、経済成長を遂げるアジア圏においてもクルーズ需要の増加が見られ、それに伴い我が国でも、外国船社及び日本船社が運航する客船の総寄港回数は堅調に上昇している(図-2)²⁾。さらに、2018年に行われた観光立国推進閣僚会議³⁾では、各地における港湾環境強化の補助制度や乗客の消費拡大・満足度向上に向けた施策の推進が決定されるなど、今後も我が国のクルーズ観光は更なる発展が期待されていた。

ところが、昨今の新型コロナウイルスの発生やそれによる感染症の世界規模の流行・拡大により、各国においてはクルーズ船の一時運行停止や入港拒否などの対策が取ることを余儀なくされ、クルーズ市場には多大な損失が生じた。我が国も例外ではなく、クルーズをはじめとする観光関連産業には深刻な影響が及んでおり、寄港回数が増加していた各地港湾では、現在は再開の目途が立っていない。



しかし、観光庁は感染症収束後の観光産業の回復を見据えた「観光ビジョン実現プログラム2020⁴⁾」を策定した。その中では、我が国の観光資源の魅力そのものが失われたものではなく、今後は観光需要の回復に向けて反攻勢に転じるための基盤を整備するとしており、クルーズに関しても客船受入の更なる拡充を図る為の施策の推進を提唱している。

以上の背景を踏まえ、今後の我が国のクルーズ産業の再興に向けては、人々がクルーズ旅行に抱える感情や意識を把握することが重要であると考えられる。本研究では、クルーズに対する意識は過去の乗船経験に影響していると仮定し、調査対象を整理しながらWebアンケートを用いて新型コロナウイルス感染症流行前後におけるクルーズ需要の変化を分析する。

2. 本研究の位置づけ

クルーズ船客の特性や意識を考慮した分析は様々な研究でなされている。柴崎ら⁵⁾は寄港地の魅力度を定量的に評価することを目的としてクルーズ客を対象としたアンケート調査を実施した。それらの集計結果より乗船回数による乗客の選好を考慮すると共に階層分析法による各寄港地の魅力度評価を行った。大西ら⁶⁾は寄港地における船客の消費行動を調査し、乗船するクルーズのトン数や泊数など、多様な属性を踏まえた経済波及効果の推計を行っている。二羽ら⁷⁾は寄港地観光が持つ時間制約という特性を考慮したアンケート調査を実施した。船客は出港時刻に対して焦りを感じながら観光をすると仮定し、観光中の焦り度合いの変化を集計すると共に、GPS機器による行動分析との紐づけを行った。

しかし、新型コロナウイルスの流行拡大により多大な損失が生じたクルーズ観光において、これからの実態分析ではコロナ禍の乗船・寄港・観光に関してや、船社や各寄港地がとる感染防止策に対しての乗客の意識を考慮すべきだと考える。本研究では一早く調査を行い人々がクルーズ観光に抱く意識を把握することで、クルーズ観光の抱える課題や今後の施策の一助となる知見を得ることを目的とする。

3. クルーズ業界の現状

(1) 各船社の対策⁸⁾

新型コロナウイルス感染症の流行に対し、各船社では一定期間の運航停止や乗船の際の感染防止など様々な対処に追われている。プリンセス・クルーズ社では、日本発着のダイヤモンド・プリンセス号の運航を2021年4月

まで中止、東南アジアや米国、ヨーロッパなど海外発着のその他クルーズ船の年内の運航を中止としている。また、コスタクルーズの運航するコスタネオロマンチカは現在2020年10月までのクルーズの催行中止、クイーン・エリザベスを運航するキュナード・ライン社では最長で2021年末までの運航中止が決定された。日本船社に関しても、飛鳥II、ぱしふいっくびいなす、にっぽん丸は2020年10月までの催行中止が決定されている。

(2) 各国の対策⁹⁾

2020年2月に船内での新型コロナウイルスの集団感染が確認されたダイヤモンド・プリンセス号に関して、我が国の取った感染防止策が世界的に注目を集めている。各国では日本の対応を疑問視する声も多く、横浜港に関する一連の報道後、日本を感染リスクの高い国として措置を取る動きが見られる。

イギリスでは、日本を含むアジアの9つの国と地域からの帰国者に対し、帰国後14日以内の外出自粛や医療機関への連絡を促している。イスラエル政府は日本を出国後14日未満の外国人渡航者の入国を認めず、帰国した国民に対しては14日間の自宅待機を義務付けた。また太平洋の島国では日本からの渡航者に対し、感染リスクの少ない国への一定期間の滞在を確認してからの入国を認めている。更に、ウイルス検査の結果の提示を求める国や、体調不良の症状が重傷の場合は強制的に隔離する対応を取るという国も存在している。

(3) 我が国のクルーズ観光¹⁰⁾

日本国内においてもクルーズに対するマイナスのイメージが広がっている。例えば、ダイヤモンド・プリンセスにまつわる数多くの報道により、多くの国民には船内がとても狭く自由が利かないという印象が植え付けられ、船客によっては検査陰性の確認後も周囲の目を気にして外出が出来ないという事例もあるとの報告も上がっている。また、ダイヤモンド・プリンセスが外国船であったことも、クルーズのイメージを下げる要因の1つとして考えられ、その影響が日本船社の客船にも及んでいるという声もある。

一度クルーズを経験したことのある乗客は、船内生活の自由さや乗員の丁寧さ、各観光地の移動の楽しさなど、船旅の良さを理解することができる。しかし、今回の旅行が初めての方や内側窓なし客室の利用客にとっては辛い経験となってしまい、さらに報道によって全員がそのような状況であるという認識が広まってしまったとの懸念も生じている。

4. 調査概要

(1) 対象のスクリーニング

3章3節より、横浜港におけるダイヤモンド・プリンセスの感染対策に関する報道の捉え方や今後のコロナ禍のクルーズの在り方に対する人々の意識は、過去のクルーズ経験により大きく左右されると考える。そこで本調査におけるWebアンケートでは、過去の乗船経験の有無や客船・客室等に関する選好を踏まえて図-3に示す方法で対象者のスクリーニングを行う。最終的に乗船経験に関しては「経験が全くない」と「5年以内の経験が有る」に区分し、さらに「国内発着クルーズの経験が有る」場合と「海外発着クルーズも経験している」場合の中から乗船した客船の船社・客室・ランクについてを詳細に分類している。

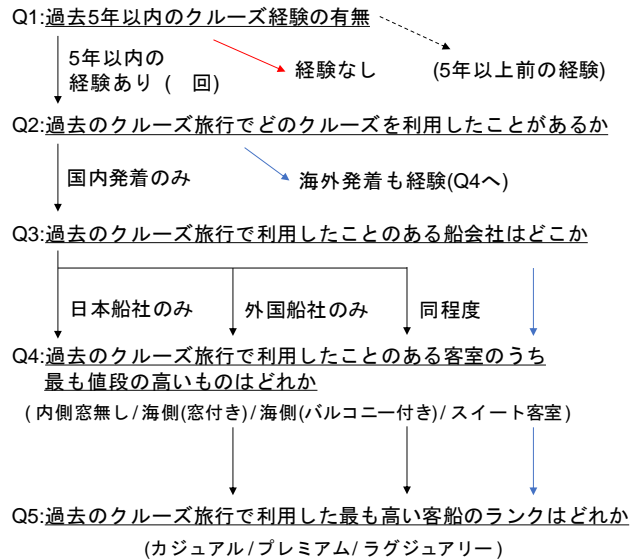


図-3 調査対象のスクリーニング

(2) アンケートの設計

表-1に、クルーズ経験が無い方への質問項目を示す。

全て新型コロナウイルス流行以前の予定や知識で回答いただくものとし、クルーズ旅行と聞いて船内生活に抱く印象や乗船価格・旅行期間等のイメージ、フライ&クルーズやフェリーとの違いなどの知識を尋ねている。また、アンケートを通してクルーズ旅行の概要を理解した上で、関心度に変化が生じたかについても調査をする。

表-2には過去5年以内のクルーズ経験が有る方への質問項目を示す。こちらも全てコロナ流行以前の知識や経験で回答いただくものとし、流行していなかった場合の乗船予定や、過去のクルーズ旅行における予算・消費額等を尋ねている。またこれまでの経験から、船内生活における客室の広さや設備の充実度、乗員の丁寧さ、船内の清潔さを評価する項目を設けた。

表-3にはコロナ禍のクルーズ観光に対する質問項目を示す。こちらは乗船経験の有無にかかわらず回答いただく。ここでは新型コロナの流行やそれに対する報道を踏まえた上で、船内生活の快適さや外国船社・日本船社に対する印象を尋ねる項目を設けた。また、今後クルーズが再開することを想定し新型コロナの流行状況がどれほど収束していれば乗船意思が生じるかや、その際に求める対策等についてを尋ねている。さらに、国内クルーズの再開を想定し、自県や隣県に寄港することに対する印象やその際に求める対策・情報についても調査する。

5. 今後の方針

本研究では、新型コロナウイルスの流行により、近年需要が増加していた我が国のクルーズ観光に深刻な影響が生じたという問題意識の背景に、これからのクルーズに対し人々が持つ意識の把握を目的としたWebアンケート

表-1 乗船経験なしの方への質問項目

新型コロナウイルス流行以前の予定や知識・イメージで
コロナ流行以前の乗船予定・意思
コロナ流行以前のクルーズへの関心度
乗船価格、旅行期間・日数イメージ
客室・客室外の広さ、客室内設備の充実度イメージ
客室・各施設の清潔さイメージ
乗員の丁寧さイメージ
フライ&クルーズの意味
クルーズとフェリーの違い
寄港地におけるオプションツアーの認識
各クルーズ船社のクラスの違い・認識
外国船社・日本船社に対するイメージ
魅力的に感じるクルーズ船内の施設
アンケートを通してクルーズへの関心度の変化

表-2 乗船経験ありの方への質問項目

新型コロナウイルス流行以前の予定や経験・印象で
コロナ流行以前の乗船予定・意思
過去のクルーズ旅行1回あたりの予算
過去のクルーズ旅行1回あたりの消費額
寄港地での主な過ごし方
船内生活に関する各項目の印象・満足度
船社の会員であるかどうか→今後の解約意思の有無

表-3 コロナ禍のクルーズに対する質問項目

新型コロナウイルスの流行(ニュース等)を踏まえて
船内生活に関する各項目の印象・イメージ
外国船社・日本船社、クルーズ全体の印象・イメージ
クルーズが再開する場合の、現在の乗船意思
乗船を望む場合の求める対策
クルーズが再開し、自県や隣県に寄港する場合の印象
自県・隣県に寄港する場合に求める対策・情報

ト調査を試みた。調査では、昨今のコロナに関する報道の捉え方や今後の乗船意思は過去のクルーズ経験に影響されると仮定し、対象者のスクリーニングを行っている。

今後は、対象区分ごとで質問項目のクロス集計を行いコロナ禍以前のクルーズへの関心度や需要がどのように変化したかを分析する。また、調査データを用いて多変量解析を行い、コロナ流行を踏まえたクルーズに対する現在の認識が今後の乗船意思に与える影響を分析する予定である。

参考文献

- 1) 四国地方整備局 港湾空港部, クルーズ振興をめぐる最近の動向 : https://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/image/policy/cruise/part3/04_shiryo1.pdf.
- 2) 国土交通省, 2010-2019年我が国のクルーズ等の動向(調査結果), 日本人のクルーズ人口, クルーズ船の寄港回数及び訪日クルーズ旅客数(確報)に関する報道発表資料を元に作成 : https://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000270.html
- 3) 観光庁, 「観光ビジョン実現プログラム 2018」(観光ビジョンの実現に向けたアクション・プログラム 2018) を策定しました! : https://www.mlit.go.jp/kankocho/news02_000354.html
- 4) 国土交通省, 「観光ビジョン実現プログラム 2020」について : https://www.mlit.go.jp/kankocho/news02_000419.html
- 5) 柴崎隆一, 荒牧健, 加藤澄恵, 米本清: 「クルーズ船客観光の特性と寄港地の魅力度評価の試み-クルーズ客船旅客を対象とした階層分析法の適用-」, 運輸政策研究, 14巻2号, pp.002-013, 2011.
- 6) 大西遼, 藤生慎, 高山純一, 二羽遼太郎, 高田和幸, 南貴大, 森崎祐磨: 「クルーズ客の消費による経済波及効果の推計-金沢港へ訪れた多様なクルーズ船の属性を考慮して-」, 日本クルーズ&フェリー学会論文集, 第9号, pp.39-45, 2019.
- 7) 二羽遼太郎, 藤生慎, 高山純一, 塩崎由人: 「大型クルーズ船客の出港に対する焦りと寄港地における観光行動に関する研究」, 日本クルーズ&フェリー学会論文集, 第10号, pp.6-11, 2020.
- 8) 名鉄観光 HP, 各クルーズ客船の感染症への対策について : <https://guide.mwt.co.jp/cruise/2020-09/news-19384/>
- 9) やまごころ.jp, インバウンドコラム, 新型コロナウイルス:各国の対応まとめ-感染リスクの高い日本からの旅行者へ厳しい措置 : <https://www.yamatogokoro.jp/37201.html>
- 10) ITmediaビジネスオンライン, 新型コロナで打撃のクルーズ業界、「再浮上」のために何をすべきか : <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2004/01/news043.html>

(????.??.)

AWARENESS SURVEY ON CRUISE TOURISM BEFORE AND AFTER THE COVID-19 EPIDEMIC

Ryotaro NIWA, Makoto FUJII, Junichi TAKAYAMA

Cruise tourism has been attracting attention in recent years, but the expansion of COVID-19 has had a serious impact on the cruise industry in Japan, and there is currently no prospect of resuming cruises at various ports. However, the Japan Tourism Agency has formulated the "Tourism Vision Realization Program 2020" with a view to the recovery of the tourism industry after the convergence of COVID-19, and is advocating measures to further expand the cruise industry. From the above background, it is important to understand the current people's awareness of cruise tourism for the revival of the cruise industry. In this study, we investigate changes in demand for cruise tourism before and after the COVID-19 epidemic and people's awareness of the resumption of cruises using a Web questionnaire.